



2018年3月期第2四半期 決算説明会

2017年10月30日

カシオ計算機株式会社

本資料における業績予想及び将来の予想等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従って、実際の業績は、様々な要因により、これらの業績とは異なることがありますことをご承知おき下さい。

2018年3月期 第2四半期連結決算概況

1

単位:億円

連結	'16/2Q 実績	'17/2Q 実績	前年比	'16/上期 実績	'17/上期 実績	前年比
売上高	824	837	102%	1,567	1,535	98%
営業利益	64	81	127%	135	146	109%
利益率	7.7%	9.6%		8.6%	9.5%	
経常利益	57	78	138%	82	137	166%
当期純利益	40	58	145%	64	100	156%
1株利益(円)	15.53	23.43		24.92	40.41	

セグメント別実績 売上・営業利益

2

単位:億円

売上高	連結	'16/2Q 実績	'17/2Q 実績	前年比	'16/上期 実績	'17/上期 実績	前年比
	コンシューマ	693	708	102%	1,331	1,306	98%
システム	106	108	102%	192	191	99%	
その他	25	20	81%	44	39	87%	
合計	824	837	102%	1,567	1,535	98%	

営業利益	コンシューマ	79	90	114%	171	169	99%
	システム	▲5	6	-	▲14	5	-
	その他	2	2	105%	2	3	177%
	調整額	▲12	▲17	-	▲24	▲31	-
	合計	64	81	127%	135	146	109%

- 営業利益、経常利益、当期純利益全て上期計画達成
対前年比で大幅増益
- 時計事業は新製品効果で増収増益
- 教育事業は関数電卓を中心に高収益性を維持
- システム事業は構造改革効果で黒字化

時計事業

■売上は445億円(対前年+4%増収)、利益率19%

■高価格帯3WAYのG-SHOCKや中価格帯スマートフォンリンクG-STEELの新製品効果により増収増益

教育事業

■売上は229億円(前年比+4%増収)、利益率6%

<電卓:65%> 海外の新入学向け関数電卓が好調、前年比+10%増収、利益率16%

<辞書:10%> 前年水準で売上堅調に推移、収益性改善

<楽器:25%> 生産体制の整備が進み、対前年+2%増収、収益貢献は下期以降

デジタルカメラ事業

■売上33億円(前年比▲28%減収)

引き続き市場縮小に加え、強力新製品下期投入を控え減収
赤字4億円

システム事業

■構造改革効果により、収益性大幅改善

	<売上構成>	<損益>
・その他システム	約7割	8億円
・プロジェクター	約3割	▲2億円

2018年3月期決算予測

6
単位:億円

連結	'17/上期 実績	前年比	'17/下期 計画	前年比	'17/通期 計画	前年比
売上高	1,535	98%	1,965	119%	3,500	109%
営業利益	146	109%	194	113%	340	111%
利益率	9.5%		9.9%		9.7%	
経常利益	137	166%	183	102%	320	122%
当期純利益	100	156%	125	104%	225	122%
1株利益(円)	40.41		50.93		91.34	

セグメント別売上・営業利益

単位：億円

7

連結		'17/上期 実績	前年比	'17/下期 計画	前年比	'17/通期 計画	前年比
売上高	コンシューマ	1,306	98%	1,714	123%	3,020	111%
	システム	191	99%	199	97%	390	98%
	その他	39	87%	51	121%	90	104%
	合計	1,535	98%	1,965	119%	3,500	109%

営業利益	コンシューマ	169	99%	236	117%	405	109%
	システム	5	-	▲10	-	▲5	-
	その他	3	177%	▲3	-	0	-
	調整額	▲31	-	▲29	-	▲60	-
	合計	146	109%	194	113%	340	111%

事業拡大と事業構造改革の年度内同時達成

時計事業

GAKUHAN事業

(関数電卓・電子辞書)

コンシューマ
新ジャンル事業

システム事業

新規事業

強いビジネスモデル(G-SHOCK、
学販基盤)による事業拡大
未開拓市場の拡大スピード加速

強い技術を融合した新製品の開発
事業統合による効率化の強力推進

PA、SAを主軸に収益力増強

早期立ち上げ
(2.5Dプリントシステム／イノベーションシステム／他)

G-SHOCK35周年を契機にマーケティング強化による新市場の創造

■商品戦略

- ・G-SHOCKの記念モデルシリーズを含むラインアップ拡充
- ・高価格帯3WAYモデル(GPS+電波+スマートフォンリンク)の本格的拡大
- ・中価格帯G-STEEL及びEDIFICEのラインアップ拡大(スマートフォンリンク、カーボン素材等)



G-SHOCK
35周年モデル



OCEANUS



G-SHOCK
(G-STEEL)



EDIFICE

■営業戦略

- ・G-SHOCK35周年記念イベントにおけるグローバル商談会を通じ他ブランド品目の認知度向上
世界20カ国以上:メディア(80社/700名) / 流通(60社/500名) / 一般ユーザー(1,800名)
- ・全世界の若者ファン拡大に向けたSNSによる情報発信
フォロワー数5割増 (facebook570万人→800万人、Instagram90万人→150万人)

【関数電卓 / 電子辞書】

- カラーグラフ関数を先進国中心に拡大
- 偽物対策の大幅強化
- 重点国のさらなる拡大



【英会話学習ツール】

- 英会話学習ツールの新製品を投入
- 非店舗流通開拓によるBtoBの拡大
 - 通信教育業者、英語対応能力検定協賛会社等

■ 自社生産体制の強化による 安定的製品供給力とコスト体質の改善

■ キーボードの事業強化

- ・ ネット流通向け大増強
販促動画をSNSで全世界に拡散
- ・ ラインアップ効率化の為に
既存モデル半減による収益力強化
- ・ 多彩な新音源の開発



【G'z EYE】

- ・第二の独自ジャンル確立への第一弾
- ・当社の技術力をベースに、耐衝撃、防水、防塵性能等を具備した全く新しい製品の開発
- ・業務用を含めた用途開発による新市場の創造



【TR Mini】

- ・第一の独自ジャンルである自撮り専用機のラインアップ拡充
- ・他社製品の追随を許さない先進的機能の開発によりユニークな自撮り文化の完成度向上



2.5Dプリントシステム

■世界初の『電磁波造形技術』で新規事業の創造

・独自のデジタルシートに世界初の『電磁波造形技術』により立体的触感と多彩な素材感(布・皮・石など)を実現

■CEATEC JAPAN 初のトリプル受賞

※革新性に優れ、市場への影響力が高い製品を開発した企業を選定

■米国メディアパネル・イノベーションアワード 総合グランプリ	1社
■米国アワード・インダストリアルデザイン部門賞	9部門7社
■CEATECアワード・イノベーションテクノロジー部門グランプリ	5部門10社



■自動車、建材、アパレル等々、幅広い内外企業からの引き合い急増 ⇒ 今年度内に受注スタート

為替影響について

<ご参考①>

為替感応度 (主要通貨)

米ドル
ユーロ
人民元

為替前提
(2017年10月～
2018年3月)

113円
128円
16.3円

1円変動による影響額(年間)

売上高	営業利益
10億円	— (※1)
3.5億円	2.5億円
18億円	12億円

※1 ドル円は輸出・輸入がほぼ均衡しており影響軽微

為替レート実績 (前年差)

米ドル
ユーロ
人民元

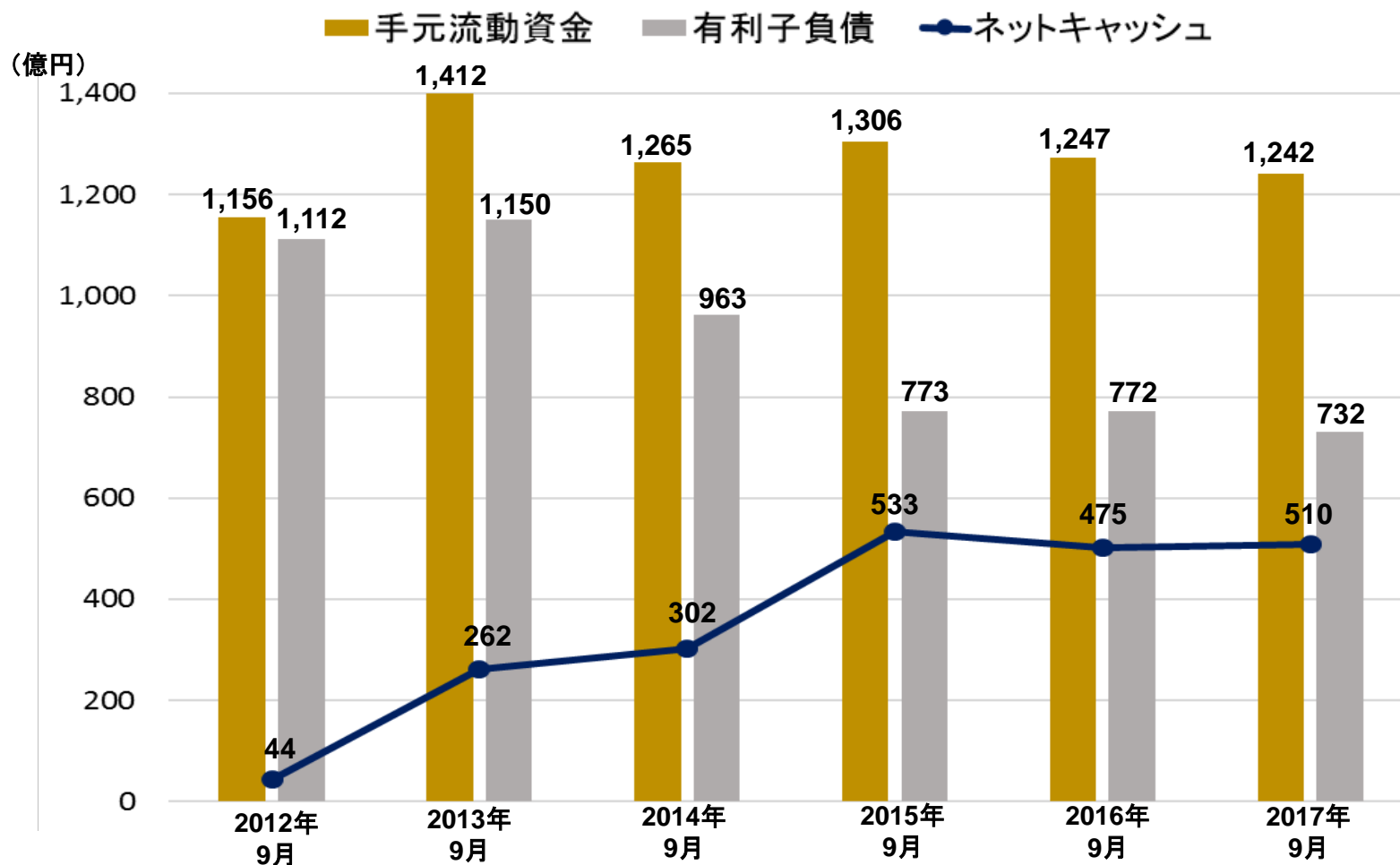
第2四半期

111.0円 (+8.6円)
130.4円 (+16.1円)
16.6円 (+1.3円)

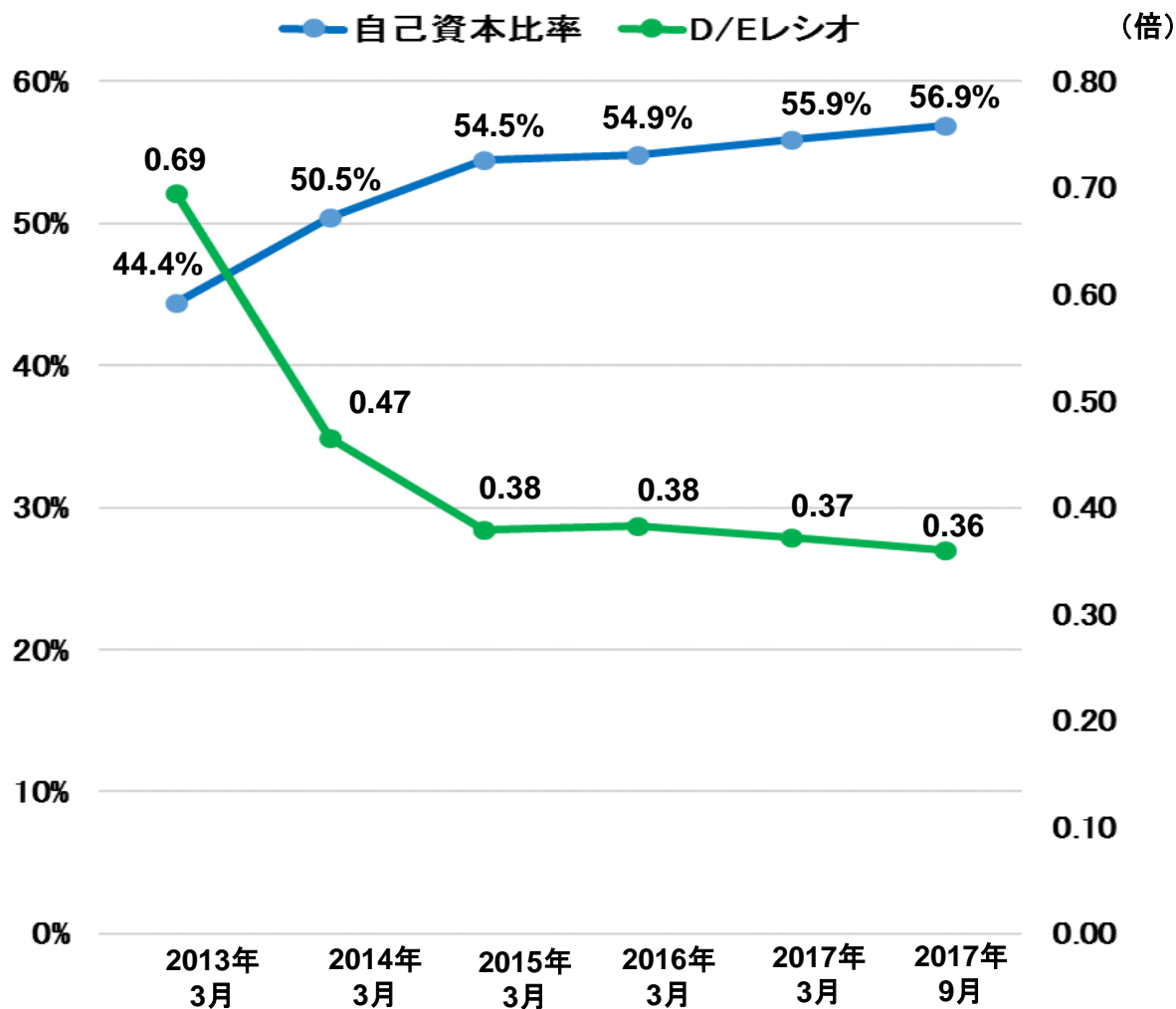
上期

111.1円 (+5.8円)
126.3円 (+8.1円)
16.4円 (+0.5円)

■手元流動資金・有利子負債・ネットキャッシュ(第2四半期対比)



■自己資本比率・D/Eレシオ



株主還元

- ・配当は安定配当をベースに業績とのバランスを考慮しつつ前向きに検討の方針
- ・自社株買いは市場環境等に応じて柔軟かつ機動的に対応

END